

東京オリンピックマラソンの雪氷桜による応援について

北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会は8月7日、8日の男女マラソン競技において、平岸地域マンション住民による満開の桜による応援を行います。

当日は全道から集まった桜の蕾の枝を開花させた「雪氷桜」をはじめ、当別町のひまわりや南富良野町のラベンダーもおもてなしの花として応援に使われる予定です。

【経緯】

東京オリンピックを応援する北海道雪氷桜プロジェクトは2018年に「北海道150年」を記念してオリンピック応援企画として発案されました。札幌の産学官グループが開催した「北海道150年記念応援団フォーラム」をきっかけに、この年の夏にオリンピック組織委員会副事務総長と陸連会長にプレゼンテーションを行いました。その直後の胆振東部地震と北海道ブラックアウトによる活動中止期間はありましたが、翌年夏の猛暑の中で東京銀座での雪柱実験と桜の開花実験を行い高い評価をいただきました。

この年10月にマラソンの札幌開催が決まり、一気に桜による沿道応援と雪柱によるおもてなしへの実現性が高まり、開催地札幌市と連携しての官民のオリンピックおもてなしプロジェクトとして、全道の自治体へ桜を提供してもらう働きかけが始まりました。

2020年1月、新型コロナウィルスの流行が始まった頃には、全道から30以上の自治体が参加し沼田町の大きな雪山の中に3千本の桜の蕾の枝が埋められました。ちょうどこの埋設の日にオリンピックの1年延期が決まり、昨年2020年8月には新千歳空港や札幌駅、さっぽろテレビ塔で見事に開花した雪氷桜が披露されました。

今年2021年2月にはオリンピックの開催も危ぶまれる中で、32自治体と北海道神宮の協力で3200本以上の剪定された蕾の枝が集まり、コロナ収束後の正常なオリンピックが開催されることへの「希望の桜」として埋設され、掘り出される日を待っていました。

この3年越しの北海道のおもてなしとアフターコロナへの希望の気持ちを込めた雪氷桜プロジェクトをいよいよ実行することとなりました。

札幌市の感染者数は未だ終息しているとは言えませんが、いま世界の夢と希望を集めたオリンピックは開幕されました。私たちは世界の人に日本のおもてなしの心を示す最後の競技となるマラソンにおいて、感染対策を万全とした上での心を込めた沿道応援を呼び掛ける予定です。

【マラソン応援におけるコロナ感染対策について】

いま、道と札幌市よりマラソン競技の屋外沿道応援の自粛が求められています。

北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会は、雪氷桜おもてなし応援においてオリンピック選手、関係者の感染対策として採用されているバブル方式を援用し、マラソンコースに面する多くのマンションの、感染していない家族を応援単位として各戸に「雪氷桜」とひまわり、ラベンダーを提供し、沿道に面したベランダや窓からの応援に使ってもらいます。

風のある屋外では屋内施設での応援に比べエアロゾルや飛沫による感染のリスクははるかに小さく、常識的にはベランダや窓から応援することによる走者への感染の可能性はありません。これを同居している家族のみで行うことによって感染が拡大する恐れは考えられません。

発走前日に「雪氷桜」をお届けする実行委のボランティアは当日抗原検査により陰性を確認した上で配送作業に入り、自家用車での移動を原則とすることで公共交通機関からの新たな感染リスクはありません。

さらに、この度は新たな人の流れを作らないという観点からコース沿道地元の平岸住人有志の協力で沿道マンションなどに花を配ってもらいます。

「北海道雪氷桜プロジェクト」に参画していただいた自治体、ボランティアのみなさんの3年間にわたる協力と、平岸地元の商店街・町内会・よさこいソーラン祭り有志の協力、当別町・南富良野町のひまわり・ラベンダーの提供にも感謝いたします。

コロナによる閉塞感に包まれ、選手との交流もおもてなしの表現の場も少ない大会での数少ない市民による歓迎活動です。ぜひご注目ください。

当日の応援イメージ図と応援予想エリアは別紙をご覧ください。

これまでの経過や報道動画などは「北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会」ホームページをご覧ください。[北海道雪氷桜プロジェクト \(150nen.com\)](http://150nen.com)

2021年8月2日

北海道雪氷桜プロジェクト

実行委員長 越智 文雄

[お問合せは北海道雪氷桜プロジェクト事務局 011-876-0814、090-6697-5059]